

第2回内部統制調査結果

- 調査実施日 7月16日(大阪)、7月18日(東京)、7月31日(東京)、8月6日(大阪)
- 調査対象者 7月、8月に弊社セミナー参加各社
- 調査目的

- ・4月の調査結果と比較することにより、3ヶ月間での進捗状況を把握する。
- ・分野別の内部統制整備運用評価に関する課題、問題について把握する。

1. 内部統制整備運用評価進捗状況

3月期決算会社の集計結果は、以下の通り。

本番開始後の進捗状況から、4月に比較して進んではいるものの各会社間のバラツキが大きくなっている。このままでは、整備不十分として、多くの会社が外部の監査人から指摘される可能性も出てきた。

逆に、内部統制の評価の基準が客観的なものでないだけに、整備評価が間に合わない場合、最終的な外部監査人の監査結果にどのように反映されるのかによっては、内部統制報告制度自体の存在意義にも影響を与えるかもしれない。

以下、分野別

① 全社統制

全社統制については、1/4の会社で文書化中であった。

プレ評価が完了した会社は半数強あり、本番評価では整備が10%強、運用が8%程度である。外部の監査人による評価は3%強とこれからの状況である。

4月段階から、文書化段階の会社が43.7%から25.6%へと、18.1ポイント減少しており、プレ評価段階の会社も増えている。

② 決算財務報告プロセス

決算財務報告プロセスでは、47.8%と約半数弱の会社が文書化の段階である。本番期でも文書化の段階が多い。

4月段階から比較すると、文書化段階の会社は56.6%から47.8%へと8.8ポイント減少してはいるが、大きな進捗があった状況ではない。年度決算業務の負荷が高く、内部統制対応ま

で手がまわらなかったことも要因のひとつであろう。

③業務プロセス

業務プロセスの文書化段階の会社は、30.5%もある。整備の作業負担が大きいこともあるが、本番時の監査にあわせて対応することになりそうだ。これらの会社は、不備が出ても重要な欠陥でない限り、時間をかけて進めることになるだろう。

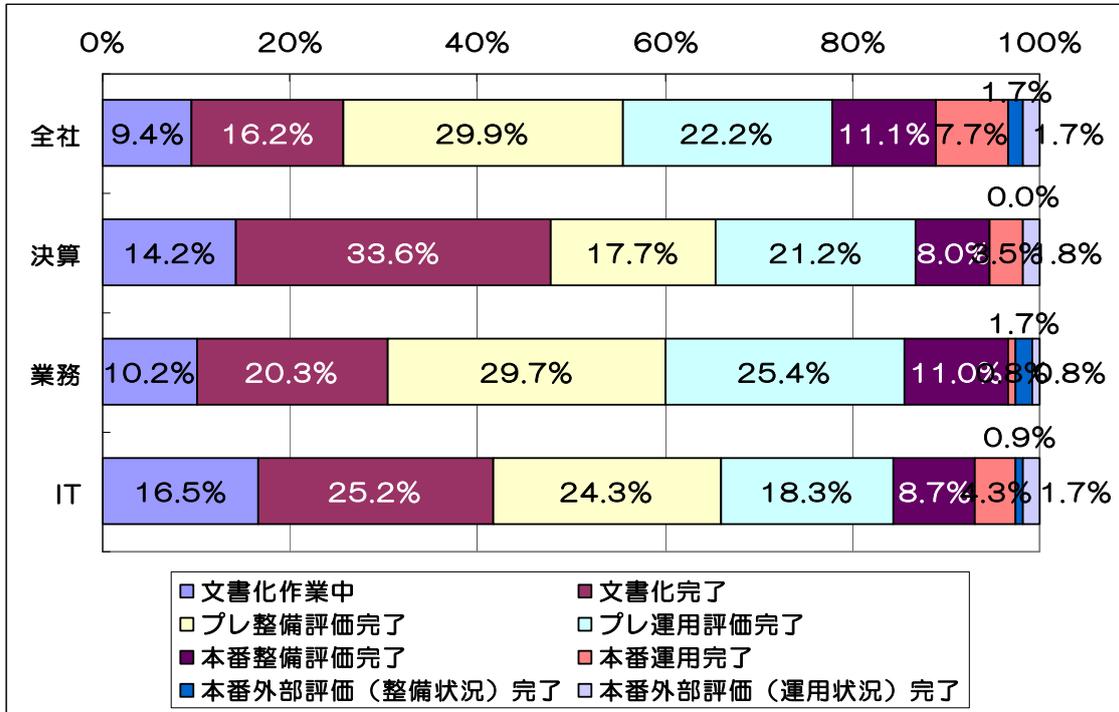
また、一方では、本番段階での外部監査人の評価も完了している会社もあり、会社間でのバラツキが、大きくなっている。

4月段階から比較すると、8.7ポイント文書化段階が減少している。また、プレ評価段階も41.6%から55.1%へと、13.5ポイント増加している。

④IT統制

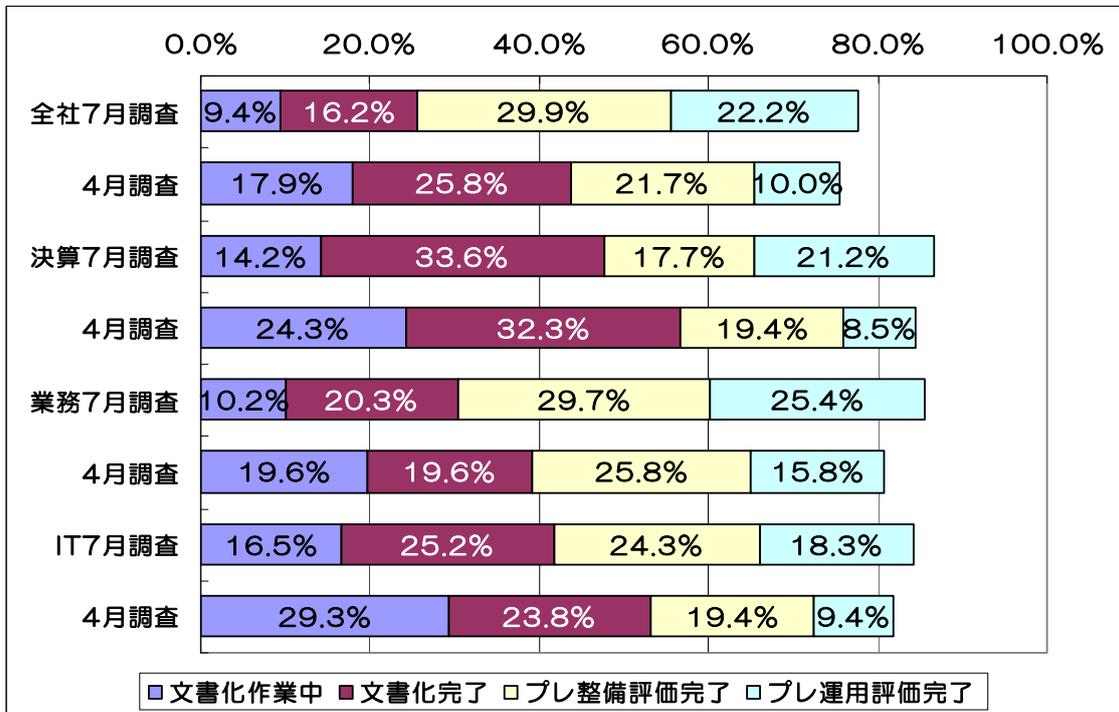
今回の調査では、最も進捗が遅れている。文書化の段階が、41.7%と多い。プレ評価の段階が、4月に比較して、28.8%から42.6%へと13.8ポイント多くなっていること、また、一方では、外部の監査人の評価も完了している会社もあり、会社間で、整備、運用評価の取り組みの格差が大きくなっている。

図表1. 7月・8月の内部統制進捗状況



図表2. 4月時調査との比較

注意 4月調査と比較するため、文書化、プレ評価段階に絞って掲載している。



2. 分野別の内部統制整備運用評価に関する課題、問題について

図表3. 全社内部統制

全社内部統制		主業種	決算月
区分	内容		
1. 評価対象範囲の設定について	管理部門関係者との共有	f運輸	3月
	従業員がごく少人数(8名)連結子会社も評価対象となっている。各社の規模に合った統制があり、評価が困難。	g建設	3月
	①項目によって、評価者を監査役とすべきと考えている(内部監査室でなく)。また、監査役に対してのモニタリングは社外取締役、内部監査室へのモニタリングは監査役と考えているがOKか?	h情報・通信	3月
	②子会社(海外)の統制のポイントは?	iサービス	
	評価方法、評価範囲の決定にどうつなげるか、どこまで整備すればよいか	jその他	3月
	リスクの洗い出しと、決算財務に影響を与える業務プロセスへの反映。子会社展開。	a製造	3月
	42項目および監査法人の質問事項があいまいな為、回答書の作成が難しい(時間を要する)	h情報・通信	12月
	中国子会社の整備、運用	a製造	12月
	文書類が多い		
	2. 評価の方法や記述レベルについて	連結対象子会社における全社統制の整備とチェックシート(項目表)の具体的な作成方法	f運輸
連結子会社への対応と規定等の整備どこまで?		c卸売	3月
在外子会社の実行可能な統制・評価について		a製造	3月
全体統制としてのレベル感、グループ各社のレベル感		a製造	3月
海外の子会社の対応がどこまで日本版で認められるのか、監査法人の見解がなかなかもえない。		b小売	2月
関連子会社との組織、体系、業務レベルのギャップをうめる作業		a製造	3月
全社的にはグループ全体としての評価だが、その評価の判定が難しい		a製造	3月
本体と関連子会社のレベルの違い(組織、規程、業務内容のレベル)		a製造	3月
グループ各社での温度差(理解度、取組)がある		a製造	3月
親会社と子会社のチェックシートを同じもので評価を予定しているが、親子間、子子間の整備レベルの違いをどのように集計して評価するかよくわからない		a製造	2月
グループ子会社の対応、海外監査法人との対応		a製造	3月
子会社の経営者への理解。評価方法のレベルが保てない。		a製造	3月
現状を洗い出し整備したものの、それを評価する手続きが明確ではない。不備があったとしても、それが財務リスクに与える影響が測定できない。		a製造	3月
全体としてどう評価するか		iサービス	3月
評価方法、評価範囲の決定にどうつなげるか、どこまで整備すればよいか			
部門の見解を会社レベルに止揚していく手順が未確立		a製造	6月
最終的な監査法人のツールに従った記述レベルとなり、自社にとって有効となるか疑問		e金融	3月
監査法人の評価方法、基準が不明		a製造	3月
経営者へのアンケートを予定しているが、評価の方法(O×式)でよいか、未知の体験で不安		a製造	3月
リスク管理の具体的手法		iサービス	3月
どのような評価方法をとるのか?どう記述していくのか?		e金融	3月
有効の判断基準		a製造	3月
評価基準		a製造	3月
どの程度細かく網羅的に評価すれば良いのか		b小売	11月
何をどこまで行くとどのように良くて、行わないとどのように不備があるのか、具体的な基準がない。		g建設	3月
当社の決算期(11月)から監査法人の対応が遅く、現状各取引プロセス3文書(20プロセス)を作成し、提出済としているが、会計監査(中間)時にリスクの認識・識別について全社的な不正リスクに捉われなくて、財務報告に係るリスクに限定すべきとの意見が初めて出されたが、特に進展が見られず、不安感がある。当社は現状独自路線にて進めており、監査法人、外部コンサル等のアドバイザー契約は行っていない。		iサービス	11月
評価方法、基準設定が難しい		iサービス	10月
重要なリスクの判断		f運輸	3月
評価の方法について、具体的にどの程度できていなければ「不備」「重要な欠陥」と評価したらよいかよくわからない。(影響額がわかりにくい不備の評価の方法)		f運輸	3月
経営者に関する事項を誰が評価するのか		a製造	3月
モニタリングの制度のレベル、件数の妥当性基準	d不動産	3月	
金融庁の言葉遣いがわかりにくい	a製造	7月	
金融庁の姿勢があいまいで明確でない	a製造	3月	
・抽象的な質問への対応 ・文書化のレベル感(教育等)	b小売	3月	
各項目が抽象的なもので、具体的にどう評価すれば良いのかわからない			
抽象的な表現になり易く、具体性をどう表現するかが難しい	iサービス	3月	
42項目について、どのように回答していくのか	iサービス	7月	
監査法人との具体的な打合せを行っていない段階であり、作成レベルがつかめていない	b小売	9月	
会社としての整備・運用が遅れており、自己評価の体制が整っていない	a製造	3月	
経営者が交代し、内容が変わる可能性がある。評価方法が明確ではない。	a製造	5月	
12月決算なので、監査法人と協議中だが、監査法人の要求が細かく、自社内の工数が多くなってしまふ	a製造	12月	
子会社(海外)の実施状況の評価	a製造	12月	
早い時期に評価すると運用で出来ていない事が多い			
アフターJ-SOXへどうつなげるか? 評価の手続きの取り決め、標準化、ノウハウの社内共有?			
トップ、経営者の認識と理解を高める	b小売	1月	
運用状況の評価の根拠設定	b小売	2月	
42項目の詳細な具体例	b小売	2月	
文書化作業中	b小売	2月	
3. 監査法人の指摘に対する対応について	組織の見直し、統制の運用	jその他	3月
	監査法人内での意見が統一できていない	iサービス	3月
	監査法人のコンサルを受け、プレ作業を進めてきたが、本年度になり状況が変わった。あるいは、監査法人内で統一見解がまとまった。これにより、より保守的対応を求められている。結果、スケジュール消化に遅れが出ている。	e金融	3月
	どのレベルであれば「重要な欠陥」や業務プロセス対象範囲を広げる必要があるのか?	b小売	3月
	これから監査法人の監査を受けることになっているが、そこでの指摘内容の影響について心配している	a製造	3月
	現在、監査法人がCLC評価中で、結果により範囲が拡大するかどうかまだ見えない所。		
	整備しているし、大概監査法人の合意を得ているが、具体的にどこまでの証憑、証跡が必要になるのかわかなくてこない。コントロールが十分かの確信が持てない。	a製造	3月
	監査法人がどういった見方で監査(評価)するのか把握しきれない。その為に当社がどこまで整備すれば良いのかが判断しづらい。	a製造	3月
	リスク・マップ作成、リスク評価体制の整備	a製造	3月
	社内への徹底の仕方につき調整中	a製造	3月
4. 実務を推進する社内での取組について	職場の意識向上	h情報・通信	4月
	企業風土、経営者の関心がボトルネック	c卸売	5月
	トップ、経営者の意識が低い	a製造	3月
	まず「形ありき」で進めた部分もあり、まだ本当に身につけていない	f運輸	3月
	取締役が積極的に関わらず、管理部門に書類だけを作らせている。経営陣は無視する可能性あり	iサービス	10月
	従業員の意識がやや低い		
	内部統制報告制度に対応したにすぎず、従業員、特に部長レベルの浸透がまだまだ弱い	a製造	3月
	規定の整備、運用が遅れ気味(リソース不足)	iサービス	3月
	海外の子会社に規程がない	a製造	3月
	テストケースを考慮することにより、規程類の改訂のタイミングの自由度が狭まった	h情報・通信	3月
5. その他	企業規模が小さい為、専任チームを作ることができず、通常業務と兼務せざるを得ず、なかなか作業が進まない。	h情報・通信	3月
	※監査法人とのアドバイザー契約を結んでいたが、報酬に見合ったアドバイスは受けられなかった事も起因するかもしれない。		
	全ての項目で始まったばかり。実施基準の解釈、マンパワー不足等、あらゆる面で整備されていないと思う。	g建設	8月
	子会社のスタッフの資質に問題が多い	a製造	3月
	文書化は完了したが、プレ運用するには、営業職・SE職の人間には時間が不足し、不満の声が多い	h情報・通信	3月
	証憑書類の保管スペースが少ない	b小売	2月
	アフターJ-SOXへどうつなげるか? 評価の手続きの取り決め、標準化、ノウハウの社内共有?	a製造	3月
	特に悩んではいないが、やるべきことは少なくない	d不動産	8月
	あまり問題はない		
	具体的記述が非常に難しい	c卸売	3月
持分法会社は、どのようにして範囲に入れるか、入れないかを判断しているのか。Q&Aの通りなのか。他社の動向をききたい。	a製造	4月	
監査法人との協議未了の為、各分野の問題点対応は今後の課題	c卸売	3月	
	g建設	3月	

図表4. 決算財務報告プロセス統制

決算財務報告プロセス統制		主業種	決算月
区分	内容		
1. 評価対象範囲の設定について	統制範囲をどこまでとするか	a製造	3月
	必要とする文書化の範囲が見えて来ない	a製造	3月
2. 評価の方法や記述レベルについて	本当に3点セットが必要か？	iサービス	7月
	評価方法が専門的になり苦慮中	a製造	3月
	評価方法が難しい	iサービス	10月
	評価の方法をどうするか	iサービス	3月
	チェック項目の設定。どのように評価をまとめるのか？	e金融	3月
	評価方法が不明瞭	a製造	3月
	運用テストの方法、考え方	a製造	3月
	評価実施時期	a製造	3月
	システム化しているようで、まだまだマニュアル部分が残っている。その評価方法。	jその他	3月
	スプレッドシートの管理方法	b小売	11月
	文書化方法	jその他	3月
	チェックの詳細度が判断難しい	iサービス	3月
	基準設定が難しい	iサービス	10月
	評価、質問ポイントではすせない重要点等	h情報・通信	3月
	どこまで深く評価すべきか迷う点が多々	iサービス	3月
	評価レベル基準	h情報・通信	3月
	記述レベル、監査のレベルに不安がある	b小売	2月
	評価の方法について、具体的にどの程度できていなければ「不備」「重要な欠陥」と評価したらよいかがよくわからない。(影響額がわかりにくい不備の評価の方法)	a製造	3月
重要なリスクの判断	f運輸	3月	
どの程度の記載をすべきか判断が難しい。従来からある業務マニュアルと文書化した書類の管理をどうすべきかも考え中である。	f運輸	3月	
RCMを作成して、それだけですべての処理に問題なく対応できるのか？監査法人の監査報告が不要になるくらいへの対応？	jその他	12月	
連結子会社への対応と規定等の整備どこまで？	a製造	2月	
在外子会社の実行可能な統制・評価について	c卸売	3月	
子会社の評価が難しい。子会社毎に会計監査法人も異なっている。海外では会計基準や制度も異なるため。	a製造	3月	
グループ子会社の対応	a製造	3月	
連結子会社の決算財務報告の全般統制 VS プロセス統制	a製造	3月	
子会社（海外）の実施状況の評価	a製造	12月	
3. 監査法人の指摘に対する対応について	相次ぐ会計基準等の変更とそれに伴う監査法人からの過剰な要求や指導に対し、財務諸表作成担当が困惑している	a製造	3月
	質的重要性の判定基準	f運輸	3月
	監査法人のコンサルを受け、プレ作業を進めてきたが、本年度になり状況が変わった。あるいは、監査法人内で統一見解がまとまった。これにより、より保守的の対応を求められている。結果、スケジュール消化に遅れが出ている。	iサービス	3月
	監査法人の要求が厳しい	e金融	3月
	監査法人からは詳細な決算マニュアルの作成を求められている	b小売	3月
	12月決算なので、監査法人と協議中だが、監査法人の要求が細かく、自社内の工数が多くなってしま	a製造	12月
	監査法人と会社の見解の相違	a製造	3月
	当社としては、チェックリスト方式でやりたい(コンサル)	a製造	12月
	監査法人一文書化3点セットの方が望ましい(リスクの把握が容易)	a製造	12月
	会計士の指摘事項が、子会社レベルに多く、統制がききにくい	a製造	3月
	監査法人の指摘内容がどのようになるか、まだ明確に示されていない	a製造	3月
	監査法人との協議未了の為、各分野の問題点対応は今後の課題	h情報・通信	12月
	整備しているし、大概監査法人の合意を得ているが、具体的にどこまでの証憑、証拠が必要になるのかが見えてこない。コントロールが十分かの確信が持てない。	g建設	3月
	監査法人の監査手続きが遅い。(方向性が明確でない) 第二四半期に内部統制の整備状況の評価をするという。当社の評価スケジュールと監査法人の評価スケジュールの時間軸が違。四半期決算報告と重なり、遅々としており、本当に今期に於いて、監査法人が有効性の評価ができるのか。	a製造	3月
	決算スケジュール及び四半期報告書への対応と内部統制実務等との調整がなかなかできない	a製造	3月
	監査法人がどういった見方で監査(評価)するのか把握しきれない。その為に当社がどこまで整備すれば良いのかが判断しづらい。	a製造	3月
	これから監査法人の監査を受けることになっているが、そこでの指摘内容の影響について心配している	a製造	3月
	当社の決算期(11月)から監査法人の対応が遅く、現状各取引プロセス3文書(20プロセス)を作成し、提出済としているが、会計監査(中間)時にリスクの認識・識別について全社的な不正リスクに捉われなくて、財務報告に係わるリスクに限定すべきとの意見が初めて出されたが、特に進展が見られず、不安感がある。当社は現状独自路線にて進めており、監査法人、外部コンサル等のアドバイザリー契約は行っていない。	iサービス	11月
4. 実務を推進する社内での取組について	経理部以外に経理のわかる人間がいないため、可否判断できない	iサービス	10月
	内部監査部門の業務の把握不足		
	業務記述書、チェックリストに沿った(OΔX式)の評価しかできない	a製造	3月
	評価する人材の不足	f運輸	3月
	企業規模が小さい為、専任チームを作ることができず、通常業務と兼務せざるを得ず、なかなか作業が進まない。	h情報・通信	3月
	※監査法人とのアドバイザリー契約を結んでいたが、報酬に見合ったアドバイスは受けられなかった事も起因するかもしれない。		
	専門的なプロセスの為、評価が難しい	a製造	3月
	専門性が高く、評価できる者がごく限られている	g建設	3月
	リスクの識別が困難。対応するコントロールの具体策の確立。専門知識が必要。		
	文書化及び評価するメンバーが選定できない(スキルの問題)	b小売	2月
	もともと決算業務を熟知した人材が少ないのに、会計士からは評価者には決算業務を熟知した人でなければならないと言われ、人の手当が不可能	f運輸	3月
	専門分野であり、評価の手段がまだ決まっていない	b小売	9月
	要員の確保と業務区分	b小売	1月
	会計実務を理解している評価者(経理部以外)がいない(独立した客観的な自己評価が困難)	a製造	3月
	経理部の体制、人員に問題があり、早急な改善は難しい	a製造	3月
	決算や日常業務に担当者が追われているため、統制活動がうまくまわらない	iサービス	3月
	経理部門が決算処理に時間がかつて進捗が遅れる	iサービス	3月
	決算財務担当部署の主体性の欠如	e金融	3月
四半期決算でリソースがあまり掛けられない	f運輸	3月	
決算担当者的人数が少なく内部統制が重荷となっている	b小売	2月	
経理部門が人材不足			
経理の実務に集中し、内部統制についての作業が大幅に遅れている。財務報告の為に内部統制なのにまったく関心がない。			
経理部門の人達が忙しすぎて、全て遅れ遅れとなる	a製造	3月	
内部統制の前段階にある正確な数字を出す体制ができていない	a製造	3月	
これまで決算専門職が業務をしてきたが、人員を増やし数名で分担して作業できるようにしていきたい			
職場の意識向上	h情報・通信	4月	
担当部署が「経理屋」から「企業改革のキーマン」「戦う経理マン」へのリテラシー傾向が難しい	c卸売	5月	
自分達の業務内容に問題ないと過信している	a製造	3月	
経理部門との共同推進体制が未確立である	a製造	6月	
連結決算処理関連の親の情報が完了していない為、自社および自社の子会社への対応が大きく遅れている。	b小売	2月	
5. その他	組織変更があり、修正する必要がある。	a製造	5月
	全ての項目で始まったばかり。実施基準の解釈、マンパワー不足等、あらゆる面で整備されていないと思う。	g建設	8月
	特に悩んでいないが、やるべきことは少なくない	d不動産	8月
	属人的作業を「見える化」できるか？	a製造	7月
	アフターJ-SOXへどうつなげるか？ 評価の手続きの取り決め、標準化、ノウハウの社内共有？	a製造	3月
決算終了後の見届けとなる為、スケジュール的にタイトである。	g建設	3月	

図表5. 業務プロセス内部統制

業務処理プロセス統制		主業種	決算月
区分	内容		
1.評価対象範囲の設定について	テスト対象拠点の選定（割合）が、はっきりとしない。自社判断では1/3程度だが監査法人からは50%程度を求められている。	b小売	3月
	キーコントロールのとらえ方	h情報・通信 iサービス	3月
	どこまで深く評価すべきか迷う点多々	h情報・通信	3月
	プロセス数が多いので、さらに減らせないか？	a製造	3月
	売上、売掛、在庫以外の評価対象プロセスの選択	a製造	3月
	本当に3点セットが必要か？	iサービス	7月
	対象範囲設定について杓子定期的「実施基準」をたてに一歩も出ず、応用がきかない。会計士と平行線になっている。	f運輸	3月
2.評価の方法や記述レベルについて	評価の視点及びテスト計画が難しい	iサービス	3月
	サンプリングの決め方	jその他	3月
	評価方法、基準設定が難しい	iサービス	10月
	証ひょう、サンプリングをどの程度とるのか？ 評価をどのように記述するのか？	e金融	3月
	サンプリングの方法。 拠点の選定。		
	自己点検の整備評価は必要？		
	評価の方法が具体的にはわからない	b小売	11月
	コントロールに対する不備是正について、どの程度どの範囲まで是正すべきか	a製造	3月
	リスクの識別が困難。対応するコントロールの具体策の確立。		
	記述レベルがバラバラ	a製造	3月
	不備と重要な欠陥の判別が難しい	a製造	3月
	RCUや業務記述書の記述レベル（内容の細かさ）	a製造	3月
	キーコントロールによる選別	b小売	2月
	レベル評価が難しい		
	対象部門のレベルに差があり、ベクトル合わせが必要	a製造	3月
	評価に際してのレベル感。いかなる不具合もすべて不備となるのか	a製造	3月
	会計上の要求が細かく困っている。プロセス数・キーコントロールが多く、監査工数、費用がかさむのが困る。	a製造	12月
	自己点検と内部監査との温度差がまだある。プロセスによって記述レベルがまだ不統一	a製造	3月
	評価の方法について、具体的にどの程度できていなければ「不備」「重要な欠陥」と評価したらよいかがよくわからない。（影響額がわかりにくい不備の評価の方法）	f運輸	3月
	重要なリスクの判断	f運輸	3月
RCMの財務リスクとビジネスリスクの重要度から見たセレクト、キーコントロールの選定	b小売	1月	
どこまで深く評価すべきか迷う点多々			
IT業務処理	ITACの評価方法	iサービス	12月
	キーマンの設立。 IT業務処理統制の記述方法。	a製造	3月
	効率的な運用に主眼を置いていたため、統制手続きが非効率なものとして受入れにくい体質の改善が容易でない	a製造	2月
	アフター-J-SOXへどうつなげるか？ 評価の手続きの取り決め、標準化、ノウハウの社内共有？		
	その他	a製造	3月
		a製造	3月
3.監査法人の指摘に対する対応について	進捗状況に対する不安	e金融	3月
		a製造	3月
	指摘対応に対する不安	iサービス	11月
		a製造	3月
	基準の相違	a製造	3月
		a製造	3月
	運用面に対する不安	b小売	9月
子会社	iサービス	3月	
	a製造	3月	
4.実務を推進する社内での取組について	浸透と定着	a製造	3月
		a製造	3月
		b小売	9月
		iサービス	3月
		a製造	3月
5.その他	その他	b小売	2月
		a製造	3月
区分なし		f運輸	3月
		h情報・通信	3月
		iサービス	3月
		a製造	3月

図表6. IT統制

IT統制		主業種	決算月	
区分	内容			
1.評価対象範囲の設定について	ITAC、ITGCとの関係性と評価範囲及び評価方法について	h情報・通信	12月	
	何が必要か見えてこない。監査法人も、会計のチームとITチームが別で意見が統一されていない。	a製造	3月	
	評価対象	a製造	3月	
	全般的に不明瞭	iサービス	3月	
	ITACの場所の網羅性	c卸売	3月	
	業務委託に関する委託先の統制	a製造	3月	
	社内に数多くあるシステムの中から評価の対象とするシステムの選定	e金融	3月	
2.評価の方法や記述レベルについて	統制のレベル	IT全般統制におけるIT統制とマニュアル統制のバランス分け	b小売	2月
		チェックポイントの妥当性（網羅性）等検証	iサービス	3月
		セキュリティとバックアップ等が主軸となりそうだが、典型的な主要Qestionというものがあれば知りたい。	h情報・通信	3月
		業務プロセスオーナーの電算室が、外部監査人（コンサルタント）が指摘する統制を設定できない	a製造	3月
		専門的知識、チェック項目の策定	e金融	3月
		どこまでやるべきかわからない	a製造	3月
		文書化のレベル	b小売	3月
		重要なリスクの判断	f運輸	3月
		整備に際し、多大な経営資源を要する(特にヒト・カネ、時間) CDAの評価基準が不明確	c卸売	5月
		既存システムを当面利用し続ける前提で、評価・記述すると「不備」に限りなく近づくが…	a製造	3月
	評価基準	評価方法が専門的になり苦慮中	a製造	3月
		専門分野であり、評価の手段がまだ決まっていない。また、実務的な評価手段が、イメージしづらい。	b小売	9月
		システム開発、変更の事例が少ない。評価をどうするのか。	jその他	3月
		アフター-J-SOXへどうつなげるか？ 評価の手続きの取り決め、標準化、ノウハウの社内共有？		
		様々なログの標準的な分析・評価基準が、設定し辛い。（対コスト性）		
		統制状況に沿った整備、運用評価に記述と証拠の用意。	a製造	3月
		IT監査と内部統制監査のレベルが違う	b小売	2月
		運用手続きの検証手続きが不明。評価するまで文書化が整備されていない。	h情報・通信	3月
		レベル評価が難しい		
		専門的なプロセスの為、評価が難しい	a製造	3月
不備の改善	評価の方法について、具体的にどの程度できていなければ「不備」「重要な欠陥」と評価したらよいかがよくわからない。（影響額がわかりにくい不備の評価の方法）	f運輸	3月	
	有効とされるレベルがどこなのか不明	b小売	11月	
	あるべき姿と実態とのギャップによる不備の改善の難しさ	b小売	2月	
IT業務処理統制との関係	現状整備不良で、対応すべき項目が非常に多く、運用まで順調に対応できるか不安である	a製造	2月	
	IT業務処理統制との関係	a製造	3月	
3.監査法人の指摘に対する対応について	進捗状況に関する不安	監査法人の監査手続きが遅い。（方向性が明確でない） 第二四半期に内部統制の整備状況の評価をするという。当社の評価スケジュールと監査法人の評価スケジュールの時間軸が違う。四半期決算報告と重なり、遅々としており、本当に今期に於いて、監査法人が有効性の評価ができるのか。	a製造	3月
		監査法人のコンサルを受け、プレ作業を進めてきたが、本年度になり状況が変わった。あるいは、監査法人内で統一見解がまとまった。これにより、より保守的対応を求められている。結果、スケジュール消化に遅れが出ている。	e金融	3月
	評価（指摘）に対する不安	どこまで整備すれば合格か？	a製造	7月
		これから監査法人の監査を受けることになっているが、そこでの指摘内容の影響について心配している	a製造	3月
		現在の文書化範囲が今後の動向で拡大するのが見えない所 監査法人の求める整備水準が不明確（当社の実情と若干不一致の懸念を感じる） プレで特に何もなければ、手戻りがあると困る 規模に応じた対応基準は？ 具体的にどのようにするか監査法人も分かっていないので、対応に窮する	d不動産	3月
	基準の相違	監査法人がどういった見方で監査（評価）するのが把握しきれない。その為に当社がどこまで整備すれば良いかが判断しづらい。	a製造	3月
		あるべき論で言い過ぎる 当社としては、チェックリスト方式でやりたい（コンサル） 監査法人一文書化3点セットの方が望ましい（リスクの把握が容易）	c卸売	3月
その他	システム上の承認、確認手続きの証拠	a製造	12月	
4.実務を推進する社内での取組について	評価組織、評価者のレベル	システム上の承認、確認手続きの証拠	b小売	1月
		専門性ある為、システム部門へ依頼しているが協力がなかなか得られず	iサービス	3月
		企業規模が小さい為、専任チームを作ることができず、通常業務と兼務せざるを得ず、なかなか作業が進まない。		
		※監査法人とのアドバイザリー契約を結んでいたが、報酬に見合ったアドバイスは受けられなかった事も起因するかもしれない。	h情報・通信	3月
		独立的評価する部門が弱い	a製造	3月
		監査部門でのIT知識の欠如	e金融	3月
		内部監査人にシステム監査に明るい者がいない	a製造	3月
		専門性が高く、人材が不足している	a製造	3月
		専門性のあるモニタリング要員の確保		
		担当者のIT全般統制の理解度向上	f運輸	3月
	ITの専門性への対応（人材）	iサービス	3月	
	ITについてのチェック要員不足	d不動産	3月	
	ITAC 評価テストする内部監査法人に該当する人材不足	a製造	3月	
	よく理解できていない	a製造	3月	
	文書類が多い。専門知識が必要。			
情報専門職にしか解らない事が多い	a製造	3月		
IT統制推進組織	情報システム部門との共同推進体制が未確立である	a製造	6月	
	IT全般統制を進める組織がない	iサービス	10月	
	経理部同様、情報システム部門も体制・人員に問題があり、改善が困難	a製造	3月	
	グループ内新会社設立と新システム導入への対応			
	IT全般統制の実施主体を子会社化してしまい、社内におけるIT組織が空洞化してしまっている	f運輸	3月	
統制の実行	IT管理部門の人数不足	a製造	3月	
	内部統制を進める上で、ITチームがSMS認証取得対応を優先しているため、J-SOX対応（文書化）が遅れている	b小売	2月	
	職場の意識向上	h情報・通信	4月	
5.その他	その他	IT化に乗り出したのが、H16年末から。外注ソフトであり、ITに関する社内規程等ない。 内部統制評価までに規程作成が間に合わない。	iサービス	10月
		各現場で、どこまでIT統制の実践ができるか不安		
		特に悩んではいないが、やるべきことは少なくない	d不動産	8月
		全般的に不明瞭	iサービス	3月
		全ての項目で始まったばかり。実施基準の解釈、マンパワー不足等、あらゆる面で整備されていないと思う。	g建設	8月
		3点セットはできたが、タイミングができない	a製造	3月
		本当に3点セットが必要か？	iサービス	7月
区分なし	当社の決算期(11月)から監査法人の対応が遅く、現状各取引プロセス3文書(20プロセス)を作成し、提出済としているが、会計監査(中間)時にリスクの認識・識別について全社的な不正リスクに捉われないで、財務報告に係わるリスクに限定すべきとの意見が初めて出されたが、特に進展が見られず、不安感がある。当社は現状独自路線にて進めており、監査法人、外部コンサル等のアドバイザリー契約は行っていない。	iサービス	11月	
	親会社に委託し協力しながら、取り組んでいるので、親会社との調整が大変。	a製造	12月	
	貴社にコンサル依頼中	a製造	9月	
区分なし	基準、規程、承認等手で行う統制だけで良いのだろうか？ 各種管理ソフトをどの程度の導入が必要なのか？	a製造	3月	
	監査法人との協議未了の為、各分野の問題点対応は今後の課題	g建設	3月	